

ARTIFICIAL PELVIS

Patent number: JP2031750
Publication date: 1990-02-01
Inventor: SHINJO KIYOSHI; others: 03
Applicant: SUMITOMO CEMENT CO LTD
Classification:
- international: A61F2/28
- european:
Application number: JP19880179194 19880720
Priority number(s):

Abstract of JP2031750

PURPOSE: To well disperse body load and tensile force to the lower limbs by constituting the title pelvis of a high hardness molded body enveloped in a tissue membrane and providing three blade parts to the upper part of said molded body while providing a socket part for a hip joint, a long projection for connecting the pubic symphysis and an ischial bone forming part to the lower part thereof.

CONSTITUTION: The title pelvis is composed of a high hardness molded body whose surface is preliminarily enveloped in a tissue membrane and three fixed blades 4, 5, 6 are provided to the upper part inserted in the periosteum of said molded body and, when the pelvis 1 is looked from the front, two blades among them are present outside the ala ossis ilium 15 and one of them is present inside the articulatio sacroiliaca of the ala ossis ilium and a part of the sacrum 14 and the ala ossis ilium 15 is supported so as to be grasped by three blades. A socket for a hip joint 25 is provided to the lower part of the molded body at an angle of inclination of about 45 deg. with respect to verticality to be present on a surface of a forward angle of torsion of about 10 deg. and has a long projection 7 for connecting the pubic symphysis 16. The tissue membrane is formed from a fabric, a knitted fabric or a film composed of a polyamide fiber, a polyester fiber, polystyrene or an ABS resin. The high hardness molded body is obtained by using an alumina polycrystalline material, hydroxyapatite or the like as main structural components.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

JP 02031750

DERWENT-ACC-NO: 1990-079100

DERWENT-WEEK: 199809

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Artificial pelvis dispersing
pressure and tension -
comprises a high hardness compact
almost entirely covered
by tissue membrane hip joint portion

----- KWIC -----

Basic Abstract Text - ABTX (1):

The artificial pelvis comprises a high hard compact
enclosed by a tissue
membrane on almost its whole surface, having three blades
to insert it inside
periosteum at the upper part, with two of them located
outside and one of them
located inside, supporting the ilium blade at the three
points, while having a
socked for the coxa at an angle of 45 deg. perpendicular
to the frontward
twist by angle of 10 deg., and a long protrusion connected
with pubis point and
forming portion for hipbone.

Basic Abstract Text - ABTX (2):

The artificial pelvis comprises woven fabric, knitting,
felt, netting,
unwoven web or film enclosed by tissue membrane composed of
at least one of
polyamide, polyester, polyolefin, polyfluorocarbon or
carbon fibre.

Basic Abstract Text - ABTX (3):

USE/ADVANTAGE - The artificial pelvis disperses pressure
and tension from
the body to the legs. The artificial coxa is hard to
dislocate.

Title - TIX (1):

Artificial pelvis dispersing pressure and tension -
comprises a high
hardness compact almost entirely covered by tissue membrane
hip joint portion

International Patent Classifications(Derived) - IPC (2):

A61F002/32

Standard Title Terms - TTX (1):

ARTIFICIAL PELVIC DISPERSE PRESSURE TENSION COMPRISE
HIGH HARD COMPACT
COVER TISSUE MEMBRANE HIP JOINT PORTION

⑫ 公開特許公報 (A)

平2-31750

⑬ Int. Cl. 5

A 61 F 2/28

識別記号

序内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)2月1日

7603-4C

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全8頁)

⑮ 発明の名称 人工骨盤

⑯ 特願 昭63-179194

⑰ 出願 昭63(1988)7月20日

⑮ 発明者 新城 清	愛知県名古屋市名東区猪高町大字猪子石字上管廻間76番地
⑮ 発明者 高木 茂栄	千葉県習志野市津田沼3-7-7
⑮ 発明者 君島 健之	千葉県市川市南大野1-10-2
⑮ 発明者 奥 隆司	千葉県船橋市芝山6-61-2-112
⑯ 出願人 住友セメント株式会社	東京都千代田区神田美士代町1番地
⑰ 代理人 弁理士 倉持 裕	

明細書

1. 発明の名称 人工骨盤

2. 特許請求の範囲

(1) 殆どの表面をあらかじめ組織膜で包接した高硬度の成形体からなり、その成形体の上部には、骨膜内側に挿入するように、3つの羽根部を有し、そのうちの2つは、外側にあり、1つは内側にあり、腸骨翼をその3つの羽根部で挟んで3点で支持し、

一方、その下部には、股関節のためのソケット部を有し、該ソケット部の面は、垂直に対して傾き約45度で、前後角度約10度にあり、そして恥骨結合と連結する長い突起部と坐骨形状部分を有することを特徴とする人工骨盤。

(2) 前記組織膜は、ポリアミド系繊維、ポリエステル系繊維、ポリオレフィン系繊維、ポリフルオロカーボン系繊維或いは炭素繊維から選択される少なくとも一つ以上材料からなる織物、編物、フェルト、網状物又は不織ウエブ又はフィルムであることを特徴とする請求項第1項の記載の人工骨盤。

(3) 前記組織膜は、全表面包接合膜として用いて

織物、フェルト、網状物又は不織ウエブ又はフィルム、同種或いは異種の硬膜、筋膜、骨膜を処理した膜体或いはコラーゲン繊維よりなる織物、編物、フェルト或いは網状物であること

を特徴とする請求項第1項の記載の人工骨盤。

(4) 前記組織膜は、ポリスチレン、ABS樹脂、メタアクリル樹脂、酢酸ビニル系繊維、セルロース系樹脂、ポリカーボネート、ポリスルホン、シリコーン樹脂、クロロスルファン化ポリエチレン、フェノール樹脂、ユリア樹脂、メラミン樹脂、キシレン樹脂、ポリエステル樹脂、エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリイミド、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、AS樹脂、ポリアミド、ポリアセタール、PBT樹脂、PBT樹脂、ポリフェニレン樹脂からなる群から選択される少なくとも一つ以上材料からなる織物、編物、フェルト、網状物又は不織ウエブ又はフィルムであることを特徴とする請求項第1項の記載の人工骨盤。

(5) 前記組織膜は、全表面包接合膜として用いて

あり、所要により、一部の部分を剥いた形状のものであることを特徴とする請求項第1項の記載の人工骨盤。

(5)前記高硬度成形材は、アルミナ多結晶体、ヒドロキシアバタイト、その他のセラミックス、カーボン、金属、合金及び硬質有機合成樹脂から選択された少なくとも1種を主構造成分として用いた材料であることを特徴とする請求項第1項の記載の人工骨盤。

(6)臼蓋部分、腸骨荷重部分、固定用羽根部(突起部)、恥骨結合連結部分及び坐骨形状部分を有する高硬度の成形体からなり、

その殆どの表面をあらかじめ組織膜で包接しており、該臼蓋部分には、股関節のためのソケット部を有し、該ソケット部の面は、垂直に対して傾き約45度で、前捻角度約10度にあり、そして、該臼蓋部分から恥骨結合連結部が出ており、該坐骨形状部分は該臼蓋部分から下に延びており、該固定用羽根部の少なくとも1つは、外側に延び、またその少なくとも1つ

は、内側に延び、ヒト腸骨部分を挟んで支持する構造をとっていることを特徴とする人工骨盤。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、人工骨盤に関する。特に、表面を組織膜で被覆した高硬度成形材を特定形状に成形した人工骨盤に関する。更に、本発明は、骨盤用人工骨(成形体)を特定形状に成形し、該人工骨の表面の少なくとも一部を組織膜で被覆した人工骨盤に関する。

[従来の技術]

従来の人工骨盤では、圧迫加重、引張張力を、体幹より下肢にうまく分散させることができなかった。また、その人工骨盤をネジ止め、骨セメントを使用して固定しても、ゆるみが生じやすいものとなり、更に、人工骨盤に合わせて使用する人工股関節は、容易に脱臼し易いものであり、これらの問題を解決する方法が要求されてきた。

即ち、骨盤の臼蓋部は、体幹からの荷重を下肢に伝える重要な働きをしている。従って、この骨盤臼蓋の骨腫瘍、その周辺の軟部腫瘍による浸潤により、人工股関節の合併症として、ソケットのゆるみで臼蓋部の大きな骨欠損、或いは外傷、骨の炎症性疾患により臼蓋部の荷重の破綻は、患者に重大な歩行性障害をもたらす。従来の人工骨構造では、このような問題に対して金属製或いはアルミナセラミックス製人工骨盤を人工股関節と組合せたり、或いは人工骨盤を使用せずに仙腸関節に人工股関節を形成したりしてきたが、ゆるみ、股関節の脱臼、脚長差、美学上の問題等において、満足の行くものではなかった。

[発明が解決しようとする問題点]

本発明は、以上のような人工骨盤の問題を解決し、体加重、引張張力を下肢にうまく分散できる構造を有する人工骨盤を提供することを目的にする。即ち、本発明は、人工骨盤に合わせた人工股関節が容易に脱臼しない構造を提供することを目的にする。また、本発明は、人工骨盤を経時的に

安定させ、併せ、人工股関節の脱臼を防止できる人工骨盤構造体を提供することを目的にする。

更に、本発明は、筋腱などの軟部支持組織を容易に再建し、良好な機能を發揮させる人工骨盤を提供し、また、審美性のある骨盤再建を行なうことを目的とする。

[問題点を解決するための手段]

本発明の複合成形材料は、上記の技術的な課題の解決のために、殆どの表面をあらかじめ組織膜で包接した高硬度の成形体からなり、骨盤内側に挿入する、上部に3つの突起部を有し、骨盤を正面から見たときに、そのうちの2つは、腸骨翼の外側にあり、1つは腸骨翼の内側にあり、腸骨翼をその3つの突起で挟んで3点で支持し、一方、下部には、股関節のためのソケットを有し、該ソケットは、垂直に対して傾き約45度で、前捻角度約10度の面にあり、そして恥骨結合と接合する長い突起部を有することを特徴とする人工骨盤である。その場合、組織膜は、ポリアミド系繊維、ポリエステル系繊維、ポリオレフィン系繊

織、ポリフルオロカーボン系繊維或いは炭素繊維から選択される少なくとも一つ以上の繊維からなる織物、編物、フェルト、網状物又は不織ウエブ又はフィルム、同種或いは異種の硬膜、筋膜、骨膜を処理した膜体或いはコラーゲンで作製した繊維による織物、編物、フェルト或いは網状物から選択して用いると好適である。

また、その組織膜は、ポリスチレン、ABS樹脂、メタクリル樹脂、酢酸ビニル系繊維、セルロース系樹脂、ポリカーボネット、ポリスルホン、シリコーン樹脂、クロロスルフォン化ポリエチレン、フェノール樹脂、ユリア樹脂、メラミン樹脂、キシレン樹脂、ポリエスチル樹脂、エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリイミド、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、AS樹脂、ポリアミド、ポリアセタール、PBT樹脂、PBT樹脂、ポリフェニレン樹脂からなる群から選択される少なくとも一つ以上材料からなる織物、編物、フェルト、網状物又は不織ウエブ又はフィルムであることが好適である。

対して金属製或いはアルミナセラミックス製人工骨盤を人工股関節と組合わせて使用してきた。又は、人工骨盤を使用せずに、仙腸関節に人工股関節を形成してきたが、ゆるみ、股関節の脱臼、脚長差、美容上の問題について、満足のゆくものはなかった。

本発明は、アルミナセラミックス或いはアバタイト焼結体のような硬質成形材よりなる成形体で人工骨盤の開発を行ない、そして、併せ、人工股関節の脱臼を防止する構成の人工骨盤を発明したものである。即ち、アルミナセラミックスにより人工骨盤を成形し、その成形人工骨盤体をポリエチレンテレフタレート(polyethylene terephthalate:具体的には、ダクロン ファブリックを使用する)で包み込み、人工股関節は袖状にして包み込んで形成したものを用いて、人工骨盤として満足すべき結果を得た。

本発明の人工骨盤の材料としては、通常生体材料として用いられる、ステンレス鋼、チタン及びチタン合金、タンタル、ニッケルークロム合金、

また、高硬度成形材は、アルミナ多結晶、ハイドロアバタイト、その他のセラミックス、カーボン、金属、合金及び硬質有機合成樹脂から選択された少なくとも一種を主構成成分として用いることが好適である。

本発明による人工骨盤構造は、次のようなものである。

即ち、セラミックスのような高硬度成形材の殆どの表面に事前に組織膜で被覆したものを、人工骨材の一部又は全部として用いるものである。

ヒトの骨盤の臼蓋部は、体幹からの荷重を下肢に伝える重要な働きをしている。そのためには、この骨盤臼蓋に骨腫瘍が生じ、或いはその周辺の軟部腫瘍が生じ、それによる浸潤により、人工骨盤に損傷を与える、或いは、人工股関節の合併症として人工関節のソケットのゆるみにより臼蓋部に大きな骨欠損を与えると、或いは外傷、骨の炎症性疾患により臼蓋部の荷重に被継させると、患者に重大な歩行障害をもたらす。従来、かかる問題に

ニッケルークロムーコバルト合金及びコバルトークロムーモリブデン合金、セラミックス、カーボン、金属、合金及び硬質有機合成樹脂から選択される少なくとも一種を主構成成分とすることができる。このうち、アルミナ多結晶(以下アルミナセラミックスと称する)が、好適である。

次に本発明の人工骨盤構造を具体的に実施例により説明するが、本発明はそれらによって限定されるものではない。

[実施例]

本発明による人工骨盤の構造を、第1図によつて説明する。

即ち、本発明の人工骨盤1は、臼蓋部2、副骨荷重部3、固定用羽根(舌部)4、5、6、恥骨結合連結部7及び坐骨部8を有する。

これに対して、この人工骨盤を結合するヒト骨盤10は、その骨盤の骨切り部(切断面)11を、大坐骨孔12の上端より、上前腸骨棘13の下端に取ると、仙骨14まではほぼ一直線になる。

これに対して、荷重面20は、1点鋼線で示すような一直線部分(平面)で広く荷重させるようできるものである。

本発明の成形体(人工骨)の固定用の羽根4、5、6は、腸骨荷重部3より上部側に伸びる腸骨翼15を骨膜下に外側より包むようにする。羽根の長さ4、5は、小殿筋の付着部を越し、中殿筋の付着部で終わる長さにする。通常の大人患者の場合、好適には、約5cmの長さである。然し乍ら、患者の体格に合わせて、多少の長さの増減がある。

本発明によるこのような成形体(人工骨)の羽根4、5は、先天性股関節高位脱臼の治療例においては、殿筋の中に大腿骨頭が埋没し、主に殿筋で体重を支えるのであるが、脚長差による跛行性は在るが、逆に股関節の支持性が良く、疼痛は少ないという知見に基づいて、着目したものである。即ち、2本の羽根4、5を殿筋内に埋没させ、荷重負荷を一部分分散させると同時に、人工骨盤の安定化を図る上で重要な働きをする。また、

外側に羽根4、5を出した構造は、人工骨盤1が荷重により骨盤腔18の方向に押し上げられる力が加わるために、固定用羽根4、5で荷重力を分散させるに都合が良いものにするためである。内側に羽根6を1本出しているが、これは、3本の羽根で腸骨翼15を3点で支持し、固定すると、安定した支持が得られるためである。この内側羽根6には、比較的に荷重が掛からないために、短いものでよい。通常の大人的場合、せいぜい2~3cmの突起であれば十分である。

即ち、本発明の人工骨盤は、以上のように、羽根部即ち突起部を3つ有し、ヒト骨盤、腸骨支持面との接合面を増やすためにある。然し乍ら、その接合面を増やすには、膜度がある、即ち、接合面が多いと、栄養障害をおこす可能性を増加させことになり、不都合があるのである。

また、本発明による成形体(人工骨)の表面には、組織膜を包接してある、例えば、ダクロンファブリックを巻き付けてあり、外側の生体組織、例えば筋肉、軟部組織との接合面にダクロン

ファブリックと接触してるので、生体組織の成長誘導に適するものとなる。

従って、本発明の人工骨盤の構造は、骨接合部で骨吸収が生じても、新たな荷重バランスになるものである。

即ち、本発明の人工骨盤を組織膜(組織膜としては、全表面包接合膜として用いてあり、所要により、一部の部分を創いた形状のものであることが好適である。本明細書では、この組織膜として、ポリエチレンテレフタレート(polyethylene terephthalate)による布、商標名として、ダクロン ファブリック(dacron fabric)を称するものを用いた例で説明するが、その他に種々の組織膜を使用できる)で包むことにより、人工骨盤の安定性が保持できる。即ち、従来の人工骨盤では、骨吸収が生じると、"ゆるみ"につながり、重大な合併症を引き起こしてきたが、本発明の人工骨盤の固定化法では、合併症を生じるような"ゆるみ"は発生しないものである。即ち、本発明による人工骨盤は、第1に、生体の仙腸関節と似

た構造をしていることになり、即ち、アルミニウムミックスと骨接合部は、ある程度可動性を許し、組織膜(ポリエチレンテレフタレート織物)包接膜を介して強固な結合組織で連結され、一体化されているものである。

本発明の人工骨盤の臼蓋部2は、メチルメタクリレート即ち骨セメントで、人工股関節のソケットに接着してあるために、容易に安定化されるものである。即ち、そのソケットは、ヒト骨盤の矢状面に対して傾斜約45°で、前後傾斜約10°の角度で接着するような構造のものである。

更に、本発明の人工骨盤1は、坐骨部8、恥骨結合連結部7でも、生体に近い形状にできるものである。

然し乍ら、人工骨盤用の成形体には、閉鎖孔が、必要ないが、閉鎖神経道路を障害しないように、やや生骨枝に当る部分7(即ち、恥骨連結部)を低くして、その上方を閉鎖神経が通過できるようにすることが好適である。

また、ヒト恥骨、坐骨を一部留存できる場合

は、それに応じて本発明による人工骨盤用成形体の恥骨連結部7、坐骨部8の突起を少なくすることが好適である。

本発明の人工骨盤1において、腸骨、恥骨結合への接着のため及び、人工骨に約3mmの貫通孔を恥骨結合のために2個(9)、そして、腸骨用に前部川の羽根部分5に2個(9)作製し、その孔を介して、ワイヤー又は樹脂の糸或いはテープで、それぞれの恥骨結合16及び腸骨17に綴結するものである。

本発明の人工骨盤に用いられる骨(成形体)を包むための組織膜(包接膜体)には、ポリアミド系繊維、ポリエステル系繊維、ポリオレフィン系繊維、ポリフルオロカーボン系繊維、炭素繊維からなる群から少なくとも1つから作られる織物、網物、フェルト、網状物及び不織布ウエブ並びにフィルムを用いることができる。又は、同種或いは異種よりの脳硬膜筋膜、コラーゲン繊維によるなる織物、網物、フェルトなどを用いることができる。

本発明により、このダクロン・ファブリックで人工骨を包み、人工骨盤を作り、その荷重部及び羽根部で、ヒト骨と接触する部分は、ダクロン・ファブリックを切除し、アルミニナセラミックスと骨と直接接触するようにした。また、人工関節においては、人工関節包接成形を行ない、関節部における脱臼、逸脱を防止した。

このダクロン・ファブリックは、生体内組織の再建手術に用いた場合には、スカフォルド(scaffold;足場)として、働き、3~4ヶ月経過後には新生自家組織が経時的に組織化することにより、最終的には生物学的に新生骨組織が形成される。即ち、ダクロン・ファブリックに、ナイロン糸などを用いて、生体組織と結合し、容易に、生体と綴結することができる。

この人工骨成形体1を包むダクロン・ファブリックを介して、容易に筋肉付着部(大腰直筋、内転筋群など)、報帯(仙結節報帯、仙棘報帯など)、股関節包、骨膜を再建でき、術後の人工骨盤の安定性、筋力が経時に回復してゆき、理想

説明する実施例では、ポリエチレンテレフタレートの繊維で織った織物、即ち、ダクロン・ファブリック(ユースシー・アイ: U S C I 製、ドベイキー・ダブル・ペロア・ダクロン・ファブリック及びドベイキー・エラスチック・ダクロン・ファブリック: 登録商標)を用いた。現在、血管外科で、人工血管として広く用いられているものであり、安全性にすぐれ、自家組織誘導能にすぐれた生体材料であることは、実証されているものである。具体的には、厚さ1.40mm又は0.80mmで、有孔性3,000cc又は4,500でサイズは、15×15mmのダクロン・ファブリックを用いて、ナイロン糸で、ヒト骨盤の各組織と綴結、結合したものを用いた。勿論、これらの材料は、滅菌処理した後に用いた。これに対して、従来の人工骨盤では、ボルト、ボーンセメント、ワイヤ等で留めていたが、骨盤部において固定がうまくいかず、経時にゆるみが生じ、合併症、骨折などの不都合が生じ、また、一度ゆるみを生じると、再置換を余儀なくされる。

的な生体の再建ができた。

即ち、術後に患者は無痛で独り歩きが可能で日常生活の動作にはほとんど支障を来さないものである。

即ち、本発明の人工骨盤は、生体に一体化されるために、被包膜体に骨誘導因子(bone morphogenic protein:BMP)や膠原繊維など自家組織を誘導できる物質を含没せしめると、尚好適である。

この成形材の表面を接合するために使用する組織膜(包接膜体)には、以上に述べたダクロン・ファブリックの他に、例えば、コラーゲン繊維で織った布、ファブリック、又は、同種或いは異種の硬膜、筋膜、竹膜を処理していた包接膜体を用いることができる。

具体的には、症例により、腫瘍摘出部、外傷部或いは骨の炎症が、白蓋翼に波及している場合は、その罹患部位に応じて腸骨の骨切り部(即ち、切断面11即ち腸骨荷重部3)が、変わってくるが、人工骨盤をその形態に応じて任意に変化

させ、切断面11を調整すれば、良い。例えば、一点鎖線21のように変える。この際に、大坐骨孔12の上部の仙骨関節下端の腸骨13及び仙骨の一部14での荷重負荷に重要な役割を果たす。

また、前記のような人工骨盤を生体に一体化させるために、被包接膜体に、骨導因子(bone morphogenetic protein:BMP)や膠原線維など自家組織を誘導する物質を含浸させるとなお効果的である。

本発明に用いる成形材は、アルミナ焼結体又はアバタイト焼結体のようなセラミックス成形材、金属粉末成形材のような硬度の高い成形材を用いた成形体であり、本発明により、セラミックスのような高い硬度の材料を成形材にして、耐摩耗性の高い材料が得られる。

第2図は、本発明の人工骨盤の他の具体例を示す斜視図である。即ち、成形体の人工骨1は、上記のように、それを支持するためにヒト骨盤に接する羽根4、5、6を有する。そのうち2つの羽根4、5は、腸骨翼の外側に接し、1つの羽根6

は、内側に接してある。その羽根において、ヒトの骨と接する部分は、包接体(組織膜)がなく、骨との接合を容易にしてある。そして、身体の加重は、腸骨加重部3で支持するものである。白蓋部2には、股関節部材25(第1図参照)が嵌合すべき孔22が設けられている。その下には、坐骨に相当する坐骨形状部分8があり、腸骨結合と連結するように、腸骨結合連結部7が伸びている。そして、それらの股関節部材25及び腸骨結合連結部7を包接する包接膜23及び24が設けられる。

即ち、腸骨結合に対して、締結固定し、その上を袖状にしたダクロンファブリックで包接し、より強固な固定を期した。また、人工股関節に対しては、股関節を包接形成するために、袖状に、人工骨頭を包み込んで、脱臼を防止し易い構造にしたものである。

本実施例の人工骨盤に用いる包接体としては、U S C I 製のドベイキー・ダブル・ペロア・ダクロン・ファブリック或いはドベイキー・エラス

チック・ダクロン・ファブリックを用いた。

また、高硬度の成形材としては、アルミナセラミックスの他に、ジルコニア、窒化珪素、サイアロン及び炭化珪素とこれら異種材の複合化したセラミックスを用いることができる。

更に、このための金属材料としては、チタン、チタン合金、ステンレス、コバルトクロムモリブデン合金、形状記憶合金等又はカーボンを用いることができる。

[発明の効果]

本発明の人工骨盤は、

第1に、以上のように、従来の人工骨盤に比較し、圧迫荷重、引っ張り張力を体幹部より下肢にうまく分散させることができる人工骨盤を提供できること、

第2に、ネジ止め、骨セメントを使用することなく、ゆるみの生じ難く、脱臼し難い人工股関節を提供できる人工骨盤を提供すること等の技術的に顕著な効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の人工骨盤をヒトに適用したときの状態を示す正面図である。

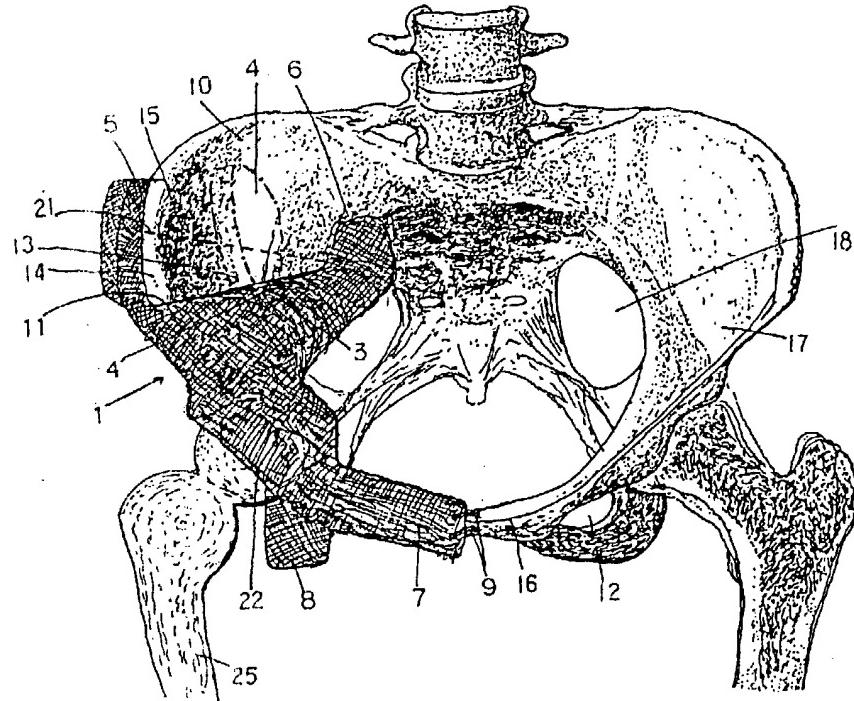
第2図は、本発明の人工骨盤の形状を示す説明図である。

[主要部分の符号の説明]

1 . . . 人工骨盤	2 . . . 白蓋部
3 . . . 腸骨荷重部	
4、5、6 . . . 固定用羽根	
7 . . . 肛骨結合連結部	
8 . . . 坐骨部分	9 . . . ワイヤ孔
10 . . . ヒト骨盤	11 . . . 切断面部
12 . . . 大坐骨孔	13 . . . 上前腸骨線
14 . . . 仙骨	
15 . . . 腸骨	16 . . . 肛骨
17 . . . 腸骨翼	18 . . . 骨盤腔
21 . . . 代替切断面	

特許出願人 住友セメント株式会社

代理人 弁理士 倉持裕



第1図

手続補正書(自発)

昭和63年10月25日

特許庁長官 吉田文毅殿

1. 事件の表示

昭和63年特許願第179194号

2. 発明の名称

人工骨盤

3. 補正をする者

事件との関係 出願人

住所 東京都千代田区神田美士代町1番地

名称 住友セメント株式会社

代表者 今川彦二

4. 代理人

住所 〒101東京都千代田区神田須田町1丁目2番地

日邦・四国ビル3F

電話(03)263-4781

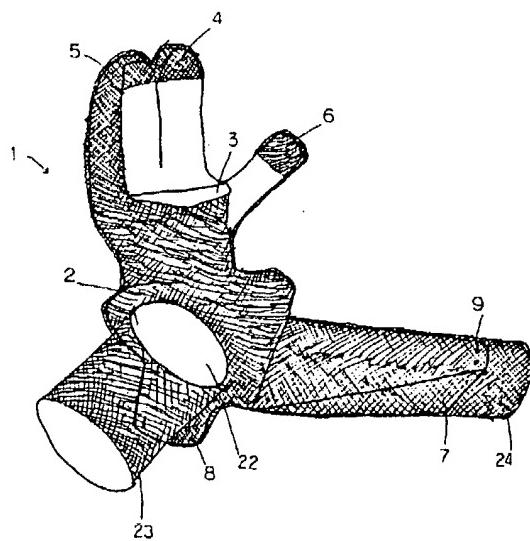
氏名 弁理士(7897) 倉持裕



5. 補正の対象

(1)明細書の【発明の詳細な説明】の欄

(2)図面



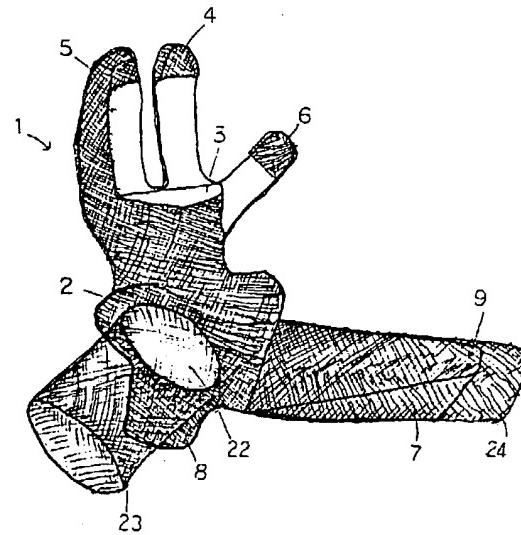
第2図

7. 補正の内容

- (1) 明細書の第5頁第15行目の「以上ような」を「以上
のような」に訂正する。
- (2) 同上第6頁第3行目の「筋腱」を「筋・腱」に訂正
する。
- (3) 同上第6頁第13行日の「腰骨翼の内側にあり」を「
[腰骨翼の仙腸関節、仙骨の一部内側にあり]」に訂
正する。
- (4) 同上第8頁第14行日の「人工骨盤」を「骨盤」に訂
正する。
- (5) 同上第14頁第17行日の「やや生骨枝」を「やや恥
骨枝」に訂正する。
- (6) 同上第15頁第18行日の「脳硬膜筋膜」を「脳硬膜
・筋膜」に訂正する。
- (7) 同上第18頁第14行日の「処理していた」を「処理
して」に訂正する。
- (8) 第2図を別紙の通り訂正する。

8. 添付書類の目録

訂正した第2図



第2図